

一昨日あたりから朝夕の気温がぐんと下がり、風は冷たく乾いて、本格的な冬の到来を感じさせます。いよいよ師走、一年の締め括りの時季になりました。学校では、これまで学習したことの復習をしたり、学期末テストで習熟度を測ったりなど、2学期の大詰めを迎えます。また、本日から2学期最後の授業参観や学級集会が始まりました。子どもたちが、力が伸びたことやできるようになったことを確かめ、大人たちが、それを伸ばすことができたと感じ合う12月であってほしいと思います。

喜々津小人権月間・人権集会

12月10日は世界人権デーですが、日本では12月4日～10日を入権週間と定め、全国的に入権尊重の思想を広めています。



本校では、一月早く11月を入権月間とし、みんなで取り組みました。まず、代表委員会で今年の喜々津小人権宣言を採択し、「いじめをなくし、思いやりの心を持ちます。笑顔で仲間と助け合います。」という宣言文が掲げられました。これをもとに、各学級でもスローガンを決め、人権に関するDVDや図書の視聴、

人権の木



花のカードに友達の良いところを書いて貼っていく「人権の木」作りや「人権標語」作りなどを通して、お互いを思いやり、人権を尊重することの大切さ、友情の尊さや生きることの喜びについて学びました。

そして、11月27日に人権月間で学んだことや取り組んだことを発表し合う「人権集会」を開きました。ただ、今年は3密をさけるため、1・3・6年生と2・4・5年生の2つに分かれて集会を行い、全校合唱なども省略をしなければなりませんでしたが、全校の子どもたちが一堂に会して、人権を守ろうとする取組を共有することはできませんでしたが、各学級の発表には、差別をなくし、仲間を大切にしようとする決意が見られました。

校長の私からは、短いけど、心が温まり、励みにもなる「一秒の言葉」について話をしました。これは、低学年が学習した「ふわふわ言葉」にも共通するもので、「ありがとう」、「すごいね」、「どうしたの」、「がんばって」などの言葉を指します。これらの言葉を使うことで、人との関わり方は変わってきます。友達からかけられる一秒の言葉で、新型コロナでつらいことがあっても乗り越えられたという『私のアイメッセージコンテスト』の受賞作を例に挙げながら、「自分の普段の言葉や相手への気持ちを見つめ直し、本当の仲良しになるための行動をしよう!」と呼びかけました。

栄養教諭による給食訪問（11月16日～12月16日）



先月から、西部地区の学校を担当されている栄養教諭の古賀先生が、給食時間に各学級を訪問し、健康や成長などに給食が果たしている役割や望ましい食事の仕方について指導をされています。子どもたちは、バランス良く食べることの大切さを知り、食への関心も高まっているようです。これまで、6年生から4年生まで指導を受けました。古賀先生からは、「喜々津小の子どもたちは、あいさつなど礼儀正しく、いい姿勢で話を聞いてくれる。」と褒めていただいています。さて、3年生以下の子どもたちはどうでしょうか？

サイバーセキュリティ出前授業（11月25日）



昨今、子どもたちは気軽にスマホやタブレットなどを使い、ゲームをしたり、知りたい情報を入手したり発信したりするようになりました。

しかし、便利さの反面、子どもたちが興味本位で他人のプライバシーを侵害してしまったり、正しい知識がないまま心の弱みに付け込まれて犯罪に巻き込まれてしまったりする事案も起きています。そんな時代だからこそ、未来を担う子どもたちに正しいマナーやモラルを身に付けさせ、インターネット等を正しく活用できるようにすることが大切です。

そこで、長崎県警「サイバーセキュリティボランティア事業」に参加している諫早商業高校の生徒さんを講師として招き、5・6年生を対象に、情報モラルや情報セキュリティについての出前授業をしていただきました。また、この授業は学校保健委員会の講演会として、メンバーである保護者の方々にも参観していただきました。

授業の内容は、パスワードからの個人情報の流出、ネットやゲームの依存症、小学生のSNS被害や誹謗中傷、インターネット詐欺の問題などでした。ネット依存症や誹謗中傷の話は、身近な例を取り上げながら、語りかけるように説明をしてもらいました。子どもたちにとっては、大人よりも、年が近いお兄さん・お姉さんから話してもらった方が、親しみやすく、分かりやすかったようです。講義のあとに質問タイムが設けられ、子どもたちは積極的に手を挙げて、個人情報の漏洩を防ぐにはどこに気を付ければいいのかなどを質問していました。この講義が、子どもたちや参加された保護者にとって、“転ばぬ先の杖”となることを願っています。

御協力ありがとうございました！～家読&メディアコントロールチャレンジ～

各御家庭で、11月4日～27日まで「秋の家読（うちどく）」、喜々津中のテスト期間に合わせて「メディアコントロールチャレンジ」に御協力いただきました。家読取組カードには、お子さんだけでなく、保護者の皆さんにも感想をたくさん書いていただき、誠にありがとうございました。その中から、保護者の方々の感想をほんの一部だけ紹介させていただきます。



今回、初めて一冊の本を役割を決めて読みました。登場人物になりきって読むことになり、とても面白かったです。引き続き、家族読書に取り組みたいと思います。（1年）

普段はなかなか忙しくて一緒に本を読む時間がありません。家読では、一緒に読んだり、子どもが読み語りをしたりしました。楽しい時間を過ごせ、子どもの成長を感じました。（2年）

毎日の音読を頑張っていたので、本の読み方も上達していて、聞きやすくなっていました。家族揃ってできなかったのが、次回は家族で話し合い、③へも取り組んでみたりと、楽しみたいと思います。（3年）

初めて作り話で取り組んでみました。意外と話がつながって大作になりました。登場人物が増えて話も長くなりましたが、成長を感じました。読み聞かせはとても久しぶりで子どもは大喜びでした。（4年）

普段読んだり、読んでもらったりしないので、今回、図書館へ本を借りに行き、自分が読みたいと思った本を選んでいたので、真剣に読んでいました。こういう時間も大切なひとときだと思いました。（5年）

小さいころに読んでいた絵本を一緒に読んで、とてもあったかい気持ちになりました。おじいちゃんと読んでいる時は2人ともとても楽しそうでした。（6年）

御礼 喜々津中学校生徒会が取り組んでいた、“届けよう、服のチカラ”プロジェクトに、本校児童会も協力し、着なくなった子供服の提供を呼びかけたところ、たくさんの方から御協力をいただきました。集まった子供服は、先週末に喜々津中学校へ渡しました。この先、難民の方々など、世界中で服を本当に必要としている人々に届けられます。どうもありがとうございました。